

広島大学情報科学部  
外部評価報告書

2023年3月

## 目 次

1 はじめに	・ ・ ・ ・ ・ 1
2 情報科学部外部評価委員一覧	・ ・ ・ ・ ・ 2
3 情報科学部外部評価ヒアリング実施概要	・ ・ ・ ・ ・ 2
4 情報科学部外部評価項目別意見及び今後の対応	・ ・ ・ ・ ・ 4
5 おわりに	・ ・ ・ ・ ・ 19

## 1 はじめに

日頃より広島大学情報科学部の活動に対しましてご理解とご支援を賜り心より感謝申し上げます。

さて、広島大学情報科学部は、2018年に本学12番目の学部としてスタートを切りました。この学部は、データサイエンスとインフォマティクスに関する高次の素養を体系的・統合的に備え、さまざまな分野における個別の課題例にも精通した人材を育成することを目的として設置されました。

外部評価委員には、日本の高等教育に関して高い見識をお持ちで、情報科学・データ科学関連にも精通されている3人の先生にお願いしました。2021年11月15日、先生方にはお忙しい中、また遠方にも関わらず情報科学部へお越しいただき、長時間にわたり、本学部が発足してから現在までの学生生活、学務関連、入試状況の説明やキャンパス内の視察を行っていただきました。また、年度末の3月には追加の資料をお送りし、年度末の繁忙期にも関わらず11月の概要説明の内容と併せて情報科学部4年間の実績に基づく評価及び外国人教員招聘事業に関する評価を行っていただきました。

我々の気づいていない問題や課題が浮き彫りになったことも多々ありました。いずれも、本学部をさらに良いものにしてもらいたいという思いを感じることができ、本当にありがたく思います。

最後に、ご多忙中にも関わらず外部評価資料の作成や当日の説明に時間と労力を払われた前学部長の木島先生をはじめ、前副学部長の金田先生、現在副学部長の向谷先生、詳細なデータを集め整理していただいた教職員の皆様に感謝申し上げます。本報告書を作成することが目的ではなく、これを出発点として、より良い教育を実施していくことが我々に課された責務であることを重く受け止め、着実に改善に向けて努力することをお約束して感謝の意を表させていただきます。

令和5年3月

広島大学情報科学部長

土 肥 正

## 2 情報科学部外部評価委員一覧

外部評価委員として、以下の3名に委嘱した。※役職は当時のもの。

大西 匡光 氏 大阪大学 大学院経済学研究科 経営学系専攻 教授

丸茂 幸平 氏 埼玉大学 大学院人文社会科学研究所 准教授

吉瀬 章子 氏 筑波大学 大学執行役員・システム情報系長

## 3 情報科学部外部評価ヒアリング実施概要

委嘱した3名の外部評価委員に本学部へ来学いただき、11月15日（月）に外部評価をしていた  
だくためのヒアリングを実施した。外部評価委員に当日配付した資料は以下のとおりである。

- ・広島大学情報科学部について-学務関連-
- ・広島大学情報科学部について-入試情報関連-
- ・広島大学情報科学部について-学生生活・進路関連-
- ・外国人教員招聘事業（教員選考プロセス）
- ・外国人教員招聘事業（2018年度-2021年度実施内容）
- ・学生便覧
- ・外国人招聘教員の教員選考報告書（サンプル）

外部評価ヒアリングを受ける本学部内の出席者は、学部長、副学部長、学部長補佐、支援室事務  
等であり、合計6名であった。

なお、外部評価ヒアリングのスケジュールは以下のとおりである。※役職は当時のもの。

14:00～	学部長挨拶（木島 正明 学部長）
14:00～14:30	全体・教務関係説明（土肥 正 副学部長）
14:30～14:45	入試関係説明（向谷 博明 学部長補佐）
14:45～15:00	就職・学生生活関係説明（金田 和文 副学部長）
15:00～15:15	外国人教員招聘事業説明（木島 正明 学部長）
15:15～15:30	意見交換
15:30～16:00	施設見学

外部評価ヒアリングにおいては、資料に基づき情報科学部の概要、活動状況等の説明や外国人  
教員招聘事業の説明を行い、その後意見交換がなされた。意見交換で外部評価委員からは、現状

に対する忌憚のない意見や助言をいただき、活発な意見交換が行われた。

また、3月に以下のとおり、情報科学部第1期生の就職情報等や外国人教員招聘事業の実績終了後の報告書等の追加資料を送付し、外国人教員招聘事業を含めた外部評価を行っていただいた。

- ・「広島大学情報科学部外部評価表」の記入について(依頼)
- ・広島大学情報科学部外部評価表の記入にあたって
- ・広島大学情報科学部外部評価表
- ・情報科学部判定会議等日程
- ・令和3年度情報科学部関係就職・進路情報（令和4年3月1日現在）
- ・障害のある学生の修学支援について
- ・国立大学法人広島大学運営組織図（令和3年4月1日現在）
- ・情報科学部運営組織図（令和3年4月1日現在）
- ・情報科学部 情報公開状況（アドミッションポリシー、募集要項等リンク）

本報告書では、3月に提出していただいた外部評価表による結果をまとめ、いただいた意見等に対する今後の対応策をまとめた。

#### 4 情報科学部外部評価項目別意見及び今後の対応

外部評価委員から送付いただいた評価結果について、それぞれの質問項目ごとにまとめたものを次に示す。また、各項目の最後に、評価結果に対する今後の対応策をまとめた。

また、5段階評価のレベルは「5：特に優れている」、「4：やや優れている」、「3：普通」、「2：やや劣っている」、「1：劣っている」を示す。

なお、外部評価委員から回答いただいた各質問項目に対する5段階評価の結果について、回答一覧を表4.1.1に示す。

##### 【①学務関連】

(1) 情報科学部の基本理念、輩出する人材像は、社会の要請を反映したものになっていますか。

【A：5】我が国で極めて強く求められている人材像と思われる。

【B：5】今後社会で必要となる情報・データを分析し戦略立案を行える人材を、データアナリストを育成するデータサイエンスコースと、情報サービスエンジニアを育成するインフォマテイクスコースから育成しようとする基本理念は、社会の要請を的確に反映していると考えます。

これら2つのコースはデータサイエンティスト協会が定める2つのスキル「データサイエンス力」「データエンジニアリング力」に対応すると思われませんが、同協会ではそれらに加え「ビジネス力」の必要性も主張しています。今後のカリキュラムの見直し、あるいは大学院教育等でこれら3つのスキルのバランスについてもご検討頂けるとよいのではと思います。

【C：4】「輩出する人物像」は「社会からの要請」を踏まえたものになっている。あえて助言を申し上げるならば、輩出する人材のレベルを明示した方が外部からはわかりやすいのでは。人材のレベルには、a. 新しい技術を開発するような研究者、b. 実用化されている技術に精通したエンジニア、c. 計算パッケージなどの操作に通じているユーザー、などが考えられる。当方は、貴学部の目標は b. であると理解しているが、受験生/学生に対してこれを明示し、a. への道は大学院進学によって開かれることを意識させては。

##### 【外部評価結果に対する今後の対応】

情報科学部の基本理念、輩出する人材像が、社会の要請を反映したものになっているかの評価に対し、評価委員3名中2名が「5」と良好な結果であった。

コメントとしては、輩出する人材のレベルを表示した方が受験生や学生など外部の人に対して分かり易いのではないかとご意見をいただいている。

また、データサイエンティスト協会が定めるスキルについてコメントいただいております、旧カリキュラムで対応できていなかった「ビジネス力」については、令和4年度からの新カリキュラム（実践履修モデル）により対応が可能と考える。

本項目は、頻繁に変更するべきものではないが、こうした点を考慮し、時代や社会の要請に応じて見直しを行っていくこととしたい。

(2) 情報科学部は、社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組を実施していますか。

【A：4】特に無し。

【B：4】外部講師によるセミナー、インターンシップへの参加の推奨が行われていることを確認しました。広島大学での卒業要件となっている初年次インターンシップに負うところが大きいように見受けられますが、全く専門知識を持たない段階でのインターンシップには、効果の限界もあるように思われます。

【C：5】データサイエンスの分野で自立を図るためには座学だけでなく実践によって問題意識を持つことが不可欠である。貴学部の「初年次インターンシップ」はこのための最適な取り組みといえる。

#### 【外部評価結果に対する今後の対応】

社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組を実施しているかに対し、初年次インターンシップへの取組に関するコメントをいただいた。専門知識を持たない段階でインターンシップを体験することから、効果が限定的になることへの懸念に対する改善策を検討したい。

なお、資料では説明できなかったが、本学部のキャンパスがある東広島市が主催のデータキャンププログラムに積極的に参加するよう2年生以上の学生に促し、行政における課題解決に向けた取組みに参画している。

(3) 情報科学部の教育カリキュラム（令和4年度以降の変更は別途評価）は、基本理念、輩出する人材像に対して適切な内容となっていますか。

【A：4】データサイエンス（データ科学）は、ごく最近では、統計科学、機械学習、AI（人工知能）的手法、等を併せた融合的領域を指すので、データサイエンス、インフォマティクスの2コースの分類では若干不十分のように思われる。ただし、多くの学生が個々の大学院専攻に進学する学生向けの学部教育であるので、その点では、適切とも言える。

【B：4】2年次のデータサイエンス、インフォマティクスの基礎、3年次以降のそれぞれのコースに分かれた専門教育、いずれも本理念、輩出する人材像に対して適切なカリキュラム構成であると思いました。令和4年度以降のカリキュラム変更ですでに対応されていますが、DX人材の育成という観点からは機械学習関係のカリキュラムの強化が望まれていると思いました。

【C：4】（入学時でなく）3年次進級時にコース選択をさせるようなカリキュラム設計は、「輩出する人物像」を体現した適切なものであると考える。

#### 【外部評価結果に対する今後の対応】

外部評価委員からは、令和4年度以前のカリキュラムに対する評価では、データサイエンス、インフォマティクスコースだけでは若干不十分、機械学習の強化が望ましいとのコメント

をいただいた。旧カリキュラムでは対応が十分にできなかった分野において、令和4年度からの新カリキュラムでは対応が可能と考える。

(4) 情報科学部の教育カリキュラム（令和4年度以降の変更は別途評価）は、必要な内容を含み、体系的な編成となっていますか。

【A：4】(3)での意見と同様。

【B：4】データサイエンスコース、インフォマティクスコースそれぞれに対して、必要なカリキュラムを示し、履修時期を学年ごとに示すことで、体系的な編成を示しています。さらに育成したい人材像にあわせた履修モデルなども提示されれば、体系的なカリキュラムの構造がより明確になるように思われました。

【C：4】数学を含む教養科目を2年間にわたって履修させる設計は、専門科目を理解させるうえで適切といえる。

#### 【外部評価結果に対する今後の対応】

外部評価委員からいただいた「育成したい人材像にあわせた履修モデルなども掲示されれば、体系的なカリキュラム構造が明確になるのでは」とコメントをいただいた。新カリキュラムでは、学生個人の興味と将来の進路を見据えた基礎教育の他、早い段階から学生のキャリア選択を可能にする履修モデル（基礎履修モデル、融合履修モデル、実践履修モデル）を導入することにより、体系的なカリキュラム構造の実現を図っている。

(5) 情報科学部が令和4年度以降で検討されているカリキュラムの変更について、情報科学部設立（平成30年）後の社会からの要請の変化を反映したものになっていますか。

【A：5】

- ・変更後の3プログラム制（計算機科学、データ科学、知能科学）は、現行の2コース制よりも、(3)の意見で述べたように、時代に即したものだと思われる。
- ・変更後の3つの履修モデルのうちの融合履修モデルは、より文理融合教育の可能性を高めると期待できる。

【B：5】(3)で述べたように、令和3年度までのカリキュラムに関しては、DX人材の育成という観点からは機械学習関係の強化が望まれるところ、AIプログラムコースの新設により、この社会からの要請の変化を反映したカリキュラム改訂となっています。

【C：4】検討されているカリキュラム変更では、地元とのつながりや実務とのかかわりをより強くするものであると理解している。このことは社会からの要請に即したもので、適切な変更であると考えられる。ただし、2018年から社会的要請がこの方向で大きく変化したようには思われない。

#### 【外部評価結果に対する今後の対応】

カリキュラムの変更について、評価委員3名中2名が「5」と良好な結果であった。今後、カ

リキュラムを実施していく中で見直し、検討、改善をはかりたい。

## 【②入試情報関連】

(6) 学生の受け入れについて、入学定員に対して適切な数の入学実績が上がっていますか。

【A：4】工学部と比較して、競争率（受験者数／合格者数）が、毎年、前・後期日程のいずれにおいてもやや勝っている。

【B：4】広島大学全体で競争率の減少傾向がみられる中で、増加傾向にあるということは難しいものの、情報科学部の善戦は顕著であると思います。

【C：5】安定して定員が充足されており、学生の受け入れは適切といえる。

## 【外部評価結果に対する今後の対応】

入学実績に対する評価に対し、外部評価委員から概ね良好の評価をいただいた。

(7) 学生の受入れについて、社会の要請を反映したものになっていますか。

【A：4】

- ・(6)の理由と同様。
- ・女子学生受験者の獲得努力が功を奏したのか、女性比率が増して来ているように思われる。

【B：5】県内からの進学者比率、女子の進学者比率共に増加傾向にあり、社会の要請を反映したものになっていると考えます。

【C：4】ほかの多くの大学・学部に通ずる課題であるが、男女比率が大きく男性に偏っている。「女子入学者の増加に向けて」という取り組みはその意味で評価できる。男女別の合格人数は公表され、検討されているようである。しかし、合否判定に性別を加味するのは適当とはいえないので、検討すべきは男女別の受験人数と合格率であろう。前者に偏りがあれば女性受験者を増やす取り組みを強化し、後者に有意な差があればアドミSSIONの過程を見直すなどの対応が考えうる。

## 【外部評価結果に対する今後の対応】

学生の受入れについて、社会の要請を反映したものになっているかに対する評価に対し、概ね良好の評価をいただいた。外部評価委員からのコメントの中で、男女別の受験人数と合格率を検討すべきという意見をいただいたので、入試の分析を行う上で考慮していきたい。

なお、情報科学部では女子高生の入学動機付けのため、体験科学講座「広島大学体験科学講座～女性の高校生特別コース～」として本学部教員による公開講座を実施しており、今後も情報分野が女性にも向いていることを広報していきたい。

(8) 令和4年度広島大学情報科学部入学者選抜に係る変更（前期日程：A型の個別学力検査の配点の変更、後期日程：大学入学共通テストの配点の変更）について、その目的に照らして、適切な内容となっていますか。

【A：4】教育・研究領域上、数学的素養は不可欠であるため、入学時点でそのスクリーニングにかけることはやむを得ないものと思われる。ただし、これによって競争率がどのように変化するのか（しないのか）についての予測は難しい。

【B：5】これからのデータ分析において数学はますます重要になる中、配点の変更は適切な内容となっていると考えます。

【C：4】数学の重要性を強調するという目的に照らして適切な内容といえる。

#### 【外部評価結果に対する今後の対応】

令和4年度入学者選抜に係る変更に対する評価に対し、概ね良好といえる評価をいただいた。

ただ、外部評価委員からのコメントにあるように、当該変更に伴う競争率の変化の予測が難しいため、今後の入試実施状況の推移を踏まえ変更が適切だったかの評価をする必要があると言える。

なお、A型受験（文系）とB型受験（理系）とでは高校での履修内容が異なっているため入学時の数学基礎力に差がある場合があるが、専門教育で必要とされる最低限の数学基礎力を身につけさせるため、A型受験の入学生に対しては、微分積分通論の必修化によるリカレント教育を組織的に行っている。これにより、A型受験で入学した学生がB型受験生と同じような水準で微分積分学の基礎を修得することを可能にしている。

(9) 学生の受入れについて、入学者受入方針に沿った、適切な体制により受入が行われていますか。

【A：4】近隣の地方自治体や地元の民間企業（の支社）との連携教育の工夫が実践・実務教育の随所に見られるので、その持続可能な協力を得るためには、受験者・合格者の県内比率に注視することは必要なことであろうと思われる。

【B：5】チューター制や各種の相談窓口の充実ぶりなど、適切な体制により受け入れが行われていると考えます。

【C：4】総じて適切であるといえる。

#### 【外部評価結果に対する今後の対応】

入学者受入方針に沿った体制による受入が行われているかに対する評価について、概ね良好といえる評価をいただいた。

#### 【③学生生活・進路関連】

(10) 学生のニーズに応え得る履修相談・学習相談の体制を整備し、助言、支援が行われていま

すか。

【A：5】学生のニーズに応えるためのきめ細やかな配慮、そしてその体制が整備されているように思われる。

【B：4】情報科学部に限定しない全学の体制ではありますが、ピア・サポート・ルームなど充実した助言、支援の体制が整備されています。

【C：5】さまざまな取り組みがなされているが、少人数に対するチューター制は特に有効であると考えられる。

#### 【外部評価結果に対する今後の対応】

学生のニーズに応える履修相談・学習相談体制を整備し、支援等行われているかに対する評価に対し、評価委員の2名から「5」の評価をいただいております。概ね良好といえる評価をいただいた。

(11) 留学生、障害のある学生、その他履修上の特別な支援を要する学生に対する学習支援を行う体制は整備されていますか。

【A：5】追加資料によれば、障害のある学生に対する学習（修学）支援については、きめ細やかな配慮、そしてその体制が整備されているように思われる。ただし、留学生に対する学習支援については、資料では、その評価は難しい。

【B：4】情報科学部に限定しない全学の体制ではありますが、アクセシビリティセンターが開設されています。

【C：4】相談窓口 / アクセシビリティセンターなど必要な体制は整備されている。実施されている英語による講義は、日本人学生と留学生の交流の場にもなり得るものと評価できる。説明資料中で見つけられなかったため実施されているかは不明だが、留学生に対して日本語の講義を設けると、言語の問題が軽減されるのみならず、留学生同士のコミュニティ形成にも資するものと思われる。

#### 【外部評価結果に対する今後の対応】

留学生、障害のある学生など履修上の特別な支援を要する学生に対する学習支援への評価について、全学的な体制が整っていることについては評価をいただいた。留学生に対して日本語の講義を設けるとコミュニケーション形成ができる旨の意見をいただいたが、資料では説明することができなかった。その一方で、本学では大学として留学生への日本語教育プログラムを提供し、日本におけるコミュニケーションの問題解消を図っている。

(12) 学生の就職・進学への支援体制は適切なものになっていますか。

【A：4】工学部とも連携して、適切な支援体制が構築されているように思われる。

【B：5】全学の制度として、グローバルキャリアデザインセンターが開設され、特に県内企業との強い連携の様子が伺われます。さらに情報科学部においても独自の進路ガイダンスや企業説明会が行われています。

【C：5】適切といえる。学生支援へのかかわりは間接的なものであるが、入試種別ごとに進路をトラックして分析がなされている点は、アドミッションとキャリアパスを関連付ける取り組みとして高く評価できる。

#### 【外部評価結果に対する今後の対応】

学生の就職・進学への支援体制に対する評価について、概ね良好といえる評価をいただいた。

#### (13) 学生の就職・進学の状況から学習成果は認められますか。

【A：3】現時点での判断は難しいので、敢えて3と評価する。

【B：4】データが少ないため現時点での情報から判断することは難しいですが、育成したい人材像にふさわしい進学・就職の状況が読み取れることから、十分な学習の成果が認められていると考えます。

【C：4】学習して得られた知識や技能が発揮されることが期待されるような業界や業種への就職が多い。

#### 【外部評価結果に対する今後の対応】

外部評価委員からは、データが少ないため判断が難しい旨の評価をいただいた。情報科学部が開設して初めての卒業生を3月に輩出したため、まだ就職・進学のデータとしては不十分である。

ただし、進学活動・就職活動の状況把握及び相談体制の充実を図るため、以下を実施している。

- ・各コースに就職担当教員を設置し、学生の進路相談体制や活動状況の把握体制を構築
  - ・学部教授会・教員会において、進学・就職状況を報告・共有することにより、構成員1人1人が学生の進路状況を把握
  - ・教員による進路ガイダンス及び就職情報提供企業を招いての就職ガイダンスを実施
  - ・就職希望者に対し、工学同窓会主催による企業説明会への参加を呼びかけ
- 今後も進学活動等の結果を踏まえながら支援体制を整備していきたい。

#### 【④外国人教員招聘事業】

#### (14) 外国人教員招聘事業における招聘の目的について、社会からの要請に応える内容となっていますか。

【A：4】我が国の関連研究分野の国際化、すなわち、国際共同研究の推進、人的な国際ネットワークの形成・強化、等に貢献し得る事業であると考えます。

【B：5】 招聘の目的である、1. 国際通用性の高い教育の提供、2. 共同研究や教育方法の開発（協業）、3. 人的な国際ネットワークの形成・強化による世界的な教育研究拠点の形成、はいずれも社会からの高い要請に基づいており、適切であると考えます。

【C：4】 専門分野における海外との交流は社会からの要請の一部といえる。当事業の目的はこれに応えるものである。当事業の範囲に入るものではないが、招聘するだけでなく、貴学部から研究者を派遣 / 交換するような制度があればこれも貴学部における教育・研究力の底上げに資するものと思われる。

#### 【外部評価結果に対する今後の対応】

外国人教員招聘事業に対する評価については、人的な国際ネットワークの形成・強化による教育研究拠点の形成に貢献していることなど良好な評価をいただいた。一方で招聘するだけでなく、本学部から研究者を派遣する制度の提案をいただいた。新カリキュラムがスタートしたことや、情報科学部の定員増による教員への負担などもあり、早急な対応は難しいかもしれないが、コロナ禍によるオンライン会議が定着したこともあり、必ずしも海外に赴かなくとも、オンラインにより本学部研究者から教育・研究両面で発信していくことも検討していきたい。

(15) 外国人教員招聘事業における招聘教員の職務内容について、招聘の目的に対して適切なものになっていますか。

【A：4】 (14) に記載の観点から、適切なものとする。

【B：5】 共同研究の実施・国際共著論文執筆の準備を中心に据えながら、情報科学部教員向けセミナーや学部学生向け講演会でその成果を共有することは、招聘の目的に対して適切であると考えます。

【C：4】 適切なものといえる。期間が限られているので容易ではないが、招聘教員に、小規模なプロジェクトなどで学生 / 院生の指導にあたっていただくことなども考えられる。

#### 【外部評価結果に対する今後の対応】

招聘教員の職務内容が招聘の目的に対して適切なものとなっているかに対する評価について、概ね良好な評価をいただいた。また、招聘教員に学生の指導を行うことを提案いただいた。外国人教員による指導は英語コミュニケーション能力の向上にも繋がるため、当該事業終了後も外国人教員を招聘できる仕組み作りを考えていきたい。

(16) 外国人教員招聘事業は、情報科学部で輩出する人材像に対して、教育効果を上げられるものになっていますか。

【A：4】 特に大学院に進学し、より専門的にそして国際的に学習・研究するものにとっては教育的効果を上げたものとする。

【B：4】2020年度、2021年度はコロナ禍の影響により実施が困難であったと思われませんが、2018年度、2019年度の招聘報告書からは、十分な実績があげられていると判断いたします。

【C：4】2019年以降はコロナ禍にあり、活動形態が限られていることもあったが、オンラインのセミナーなどが実施されている。内容は一般向けのものから研究の最前線のものまであり、貴学部の「深い理解と能力を發揮できるようなスペシャリスト」という人物像を育成するにふさわしいものであると考えられる。

#### 【外部評価結果に対する今後の対応】

外国人教員招聘事業の教育効果に対する評価について、コロナ禍の影響により2020年度・2021年度の実施が十分な成果が上げられなかったことを除けば概ね良好な評価をいただいたといえる。

#### (17) 外国人教員招聘事業における招聘教員の学会出席、他大学からの招待講演等の活動実績について、評価してください。

【A：4】令和2年度からの世界的なコロナ禍以前の2018、2019年度の活動実績は高く評価できる。

【B：5】2020年度、2021年度はコロナ禍の影響により実施が困難であったと思われませんが、2018年度、2019年度の招聘報告書からは、十分な実績があげられていると判断いたします。

【C：4】特にコロナ禍以前は活発に行われていた。今後コロナ禍が落ち着いていくにつれて再び活性化するものと期待できる。

#### 【外部評価結果に対する今後の対応】

外国人教員招聘事業の招待教員の活動実績に対する評価について、コロナ禍の影響により2020年度・2021年度の実施が十分な成果が上げられなかったことを除けば概ね良好な評価をいただいたといえる。

#### (18) 外国人教員招聘事業における招聘教員との共同研究・共著論文執筆等に関する活動実績について、評価してください。

【A：4】令和2年度からの世界的なコロナ禍以前2018、2019年度の活動実績は高く評価できる。

【B：5】2020年度、2021年度はコロナ禍の影響により実施が困難であったと思われませんが、2018年度、2019年度の招聘報告書からは、十分な実績があげられていると判断いたします。

【C：5】コロナ禍においてもほとんどの事業が共同研究につながっており、実績は極めて優れていると考えられる。

### 【外部評価結果に対する今後の対応】

当該事業の招待教員との共同研究等に関する活動実績に対する評価について、コロナ禍以前の実績はもちろんのこと、コロナ禍で実施が困難な状況下においても共同研究に繋げている点が評価されたといえる。

### (19) 外国人教員招聘事業は、人的な国際ネットワークの形成・強化、世界的な教育研究拠点の形成につながるものになっていますか。

【A：5】令和2年度からの世界的なコロナ禍のため、当初に構想・計画した活動を納得できるよう実施できなかったことは大変残念であるが、そうでなければ、こうした試みは人的な国際ネットワークの形成・強化、世界的な教育研究拠点の形成のために極めて有効であったはずである。

【B：4】(16)の記述の再掲になりますが、今後の共同研究の展開を考える上では、むしろこれからさらなる研究の国際的展開を考えたいと思っている若手教員による招聘（事務コスト軽減に向けたサポート体制も整備）や、博士後期課程の学生の関与（招聘を機に留学の機会を設けるなど）をより積極的に進めることで、長期的には世界的な教育研究拠点の形成につながるのではと考えます。

【C：4】Duke University、Singapore Management University などからは複数回の招聘実績がある。こうした継続的な関係の構築は国際ネットワークの形成に大きく資するものと思われる。上記(14)でも触れたが、貴学部教員の派遣なども有効であると思われる。

### 【外部評価結果に対する今後の対応】

当該事業が人的な国際ネットワークの形成などにつながるものになっているかに対する評価に対し、コロナの影響により2020年度・2021年度の実施が十分な成果が上げられなかったことを除けば概ね良好な評価をいただいたといえる。ただ、意見として、若手教員による積極的な招聘や博士課程後期学生の関与により、長期的には教育・研究における効果に波及する可能性を指摘いただいた。

今後、同様の事業を展開していく際には、若手教員や博士課程後期学生を積極的に関わらせることで、国際的な展開へ繋げていきたい。

### (20) 外国人教員招聘事業について、総合的にどのように評価できますか。

【A：4】令和2年度からの世界的なコロナ禍のため、当初に構想・計画した活動を納得できるよう実施できなかったことは大変残念であるが、そうでなければ、こうした試みは、情報科学部のみならず広島大学、延いては国内の関連学界にとって極めて大きな意義があったはずで、今後の展開が強く期待される。

【B：4】(16)、(19)の記述の再掲になりますが、今後の共同研究の展開を考える上では、むしろこれからさらなる研究の国際的展開を考えたいと思っている若手教員による招聘（事務コスト軽減に向けたサポート体制も整備）や、博士後期課程の学生の関与（招聘を機に留

学の機会を設けるなど)をより積極的に進めることで、教育ならびに研究における高い効果が期待できるのではと考えます。

【C：5】上記理由から当事業は特に優れていると評価できる。

#### 【外部評価結果に対する今後の対応】

(19)と同じ

#### 【⑤その他】

(21) 教育研究活動を展開する上で、必要な運営体制が適切に整備され、機能していますか。

【A：5】情報科学部の運営体制（意思決定機構）はもちろんのこと、学内関連部局（学部、大学院研究科、関係諸センター）、近隣の地方自治体および地元の民間企業（の支社）、等による情報関連人材育成に対する協力・連携体制はすこぶる有効・機能的に整備されているものと高く評価できる。

【B：5】豊富な教育・研究実績を有し国際的に活躍する教授陣と手厚い事務体制で運営を牽引されており、適切に整備され、機能されていると考えます。

【C：4】代議員会が有効に活用されるなど、運営体制は適切に整備されている。貴学部の実績は運営体制が機能していることを表している。

#### 【外部評価結果に対する今後の対応】

組織運営体制に対する評価では、外部評価委員3名中2名が「5」の評価をいただき、概ね良好な結果だった。

(22) 情報公開は適切に行われていますか。

【A：4】情報科学部のホームページにおいて適切に行われていると思われる。

【B：4】広島大学情報科学部のサイト <https://www.hiroshima-u.ac.jp/ids> などを通じて十分な情報公開が行われていると考えます。上記サイトから外国人教員招聘事業などの様子を窺い知ることは難しいですが、SNSの活用等により、さらにタイムリーで魅力的な情報発信が行えるように思われます。

【C：4】Website、学部パンフレットなど適切に整備されており、情報公開は適切といえる。

#### 【外部評価結果に対する今後の対応】

情報公開の適切な管理については評価委員3名とも「4」の評価であった。いただいた意見の中で、SNSの活用等による、タイムリーで魅力的な情報発信について指摘いただいた。今後も引き続き情報科学部の魅力を発信していくとともに、ホームページの随時更新や、SNSを活用したタイムリーな情報発信も検討していきたい。

## 【総合】

(23) 情報科学部の活動状況について、総合的にどのように評価できますか。

【A：5】 部局（学部、大学院研究科、関係諸センター）、地元の地方自治体および近隣の民間企業（の支社）、等による情報関連人材育成に対する協力・連携体制はすこぶる有効・機能的に整備され、情報科学部の活動は極めて高く評価できる。最近では多くの大学において林立するデータサイエンス学部、情報学部、等の模範となる取組・活動が多く見られた。

【B：5】 明確な教育理念のもと、学生の支援・育成を重視しながら、国際的な研究を遂行するための様々な取り組みが行われており、今後の社会を牽引するDX人材の育成にふさわしい活動状況であると考えます。

【C：5】 上記の理由より、総合的に見て貴学部の活動状況は極めて優れていると考えられる。

## 【外部評価結果に対する今後の対応】

情報科学部の活動状況に対する総合的な評価について、評価委員全員から「5」の評価をいただいた。地元の自治体や近隣の企業等との人材育成に対する協力・連携体制を評価するコメントもいただいた。今年度から、知能科学プログラムを新設し、3プログラム制に改組するとともに、産業界との連携による実践・実務科目である「情報処理と産業」、「データ科学とマネジメント」、「情報科学の最前線」、「プロジェクト研究」、「長期フィールドワーク」を創設するなど、企業・自治体との連携により高度な実務教育を実施することで、先端技術とビジネスセンスを兼ね備えた柔軟性の高い人材育成に貢献していきたい。

(24) その他、これからの情報科学部に何を求めますか。ご意見を記入ください。

【A】 令和4年度での、入試制度、教育カリキュラム、等の改善など、たゆまぬ改善努力を続け、最近では多くの大学において林立するデータサイエンス学部、情報学部、等の模範となつてほしい。また、近隣の地方自治体、地元の民間企業（の支社）との共同・連携による人材育成についても同様に期待する。

【B】 (21)で述べさせて頂いた内容と表裏の関係にありますが、運営において若手教員の姿がほとんど感じられないことが気になりました。優秀な若手教員の研究時間の確保のため、教育の負担を軽減させたいという、管理職の皆様のご配慮から敢えてそのように運営されておられるものと拝察いたします。

一方、研究能力に優れた若手教員に定着して頂くためには、共同研究が可能な優秀な（特に博士後期課程の）学生を育成し、活発な研究活動が行える体制を整備することも、国立総合研究大学としては重要な方策であると考えます。就職活動以外にも、授業や論文執筆における学生の成果を積極的に評価し、多様なメディアを通じて学内外にアピールすることで、学生の研究への意欲をこれまで以上に高め、「学生への教育が教員自身の研究に直結する事例」を増やすことは、若手教員の教育への関与に対する強い動機付けを与えるのではと愚考いたしました。

【C】個別の事項に関してはすでに申し上げた通り。貴学部には、地方都市圏における国際的な学術拠点として、引き続き海外との研究者・学生の交流が行われることを期待したい。

#### 【外部評価結果に対する今後の対応】

この度、情報科学部の外部評価を初めて実施した。令和3年11月15日に外部評価委員に来学していただき、外部評価ヒアリングとして、情報科学部が発足してから現在までの学生生活、学務関連、入試状況等の説明及び学内の視察を実施した。また、3月には11月での説明内容及び追加資料を基に外部評価委員に情報科学部4年間の実績に基づく評価及び外国人教員招聘事業に関する評価を依頼した。3月で第一期生の卒業生を輩出し、学年進行上は一巡した上での評価となったことは、今年度からの新カリキュラム開始や定員増により大幅な改革を進めていかなければならない情報科学部にとって、今回の外部評価を締めくくる評価委員の意見はその方向付けに資する貴重なものである。

外部評価委員からは、データサイエンス学部等の模範となってほしい、地方都市圏における国際的な学術拠点として海外との交流が行われることを期待されているなど、期待値の高さが伺える。

現在、情報科学部の教員が中心となって組織されたAI・データイノベーション教育研究センターと連携を取り、広島県下の企業等に対するリカレント教育の実施や、企業・自治体との共同研究を通しAI・DS・ICT分野における新たな手法の開発や研究領域の拡大を図っている。また、今年度から文部科学省が実施する「数理・データサイエンス・AI教育の全国展開の推進」で中国ブロックの拠点校に認定され、中国地方をリードする拠点校として中国地方の大学との連携に取り組んでいる。今後はさらに地元企業や中国地方の大学との連携を強め、全国的に不足しているデジタル推進人材の育成を推進していきたい。

なお、若手教員による学生の教育への関与について指摘されているが、情報科学部は今年度から定員増やカリキュラムの変更などにより、若手教員も例外なく教育への負担という点では増えている。ただし、ご指摘のように、若手教員による博士課程後期学生への関与・育成を積極的に行うことで、優秀な学生の研究へのモチベーション向上に繋がり、その結果、教員も含めた研究力の向上に繋がるのであれば、本学部だけでなく研究科も巻き込んだ仕組み作りを検討していきたい。

表 4.1.1

評価項目	平均 値	回答者		
		A	B	C
<b>【①学務関連】</b>				
(1) 情報科学部の基本理念、輩出する人材像は、社会の要請を反映したのになっていますか。	4.7	5.0	5.0	4.0
(2) 情報科学部は、社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取り組みを実施していますか。	4.3	4.0	4.0	5.0
(3) 情報科学部の教育カリキュラムは、基本理念、輩出する人材像に対して適切な内容となっていますか。	4.0	4.0	4.0	4.0
(4) 情報科学部の教育カリキュラムは、必要な内容を含み、体系的な編成となっていますか。	4.0	4.0	4.0	4.0
(5) 情報科学部が令和4年度以降で検討されているカリキュラム変更について、情報科学部設立後の社会からの変化を反映したのになっていますか。	4.7	5.0	5.0	4.0
<b>【②入試情報関連】</b>				
(6) 学生の受入れについて、入学定員に対して適切な数の入学実績が上がっていますか。	4.3	4.0	4.0	5.0
(7) 学生の受入れについて、社会の要請を反映したのになっていますか。	4.3	4.0	5.0	4.0
(8) 令和4年度広島大学情報科学部入学者選抜に係る変更について、その目的に照らして、適切な内容となっていますか。	4.3	4.0	5.0	4.0
(9) 学生の受入れについて、入学者受入方針に沿った、適切な体制により受入れが行われていますか。	4.3	4.0	5.0	4.0
<b>【③学生生活・進路関連】</b>				
(10) 学生のニーズに応え得る履修相談・学習相談の体制を整備し、助言、支援が行われていますか。	4.7	5.0	4.0	5.0
(11) 留学生、障害のある学生、その他履修上の特別な支援を要する学生に対する学習支援を行う体制は整備されていますか。	4.3	5.0	4.0	4.0
(12) 学生の就職・進学への支援体制は適切なものになっていますか。	4.7	4.0	5.0	5.0
(13) 学生の就職・進学の状況から学習成果は認められますか。	3.7	3.0	4.0	4.0
<b>【④外国人教員招聘事業】</b>				
(14) 外国人教員招聘事業における招聘の目的について、社会からの要請に応える内容となっていますか。	4.3	4.0	5.0	4.0
(15) 外国人教員招聘事業における招聘教員の職務内容について、招聘の目的に対して適切なものになっていますか。	4.3	4.0	5.0	4.0

(16) 外国人教員招聘事業は、情報科学部で輩出する人材像に対して、教育効果を上げられるものになっていますか。	4.0	4.0	4.0	4.0
(17) 外国人教員招聘事業における招聘教員の学会出席、他大学からの招待講演等の活動実績について、評価してください。	4.3	4.0	5.0	4.0
(18) 外国人教員招聘事業における招聘教員との共同研究・共著論文執筆等に関する活動実績について、評価してください。	4.7	4.0	5.0	5.0
(19) 外国人教員招聘事業は、人的な国際ネットワークの形成・強化、世界的な教育研究拠点の形成につながるものになっていますか。	4.3	5.0	4.0	4.0
(20) 外国人教員招聘事業について、総合的にどのように評価できますか。	4.3	4.0	4.0	5.0
<b>【⑤その他】</b>				
(21) 教育研究活動を展開する上で、必要な運営体制が適切に整備され、機能していますか。	4.7	5.0	5.0	4.0
(22) 情報公開は適切に行われていますか。	4.0	4.0	4.0	4.0
<b>【総合】</b>				
(23) 情報科学部の活動状況について、総合的にどのように評価できますか。	5.0	5.0	5.0	5.0
(24) その他、これからの情報科学部に何を求めますか。ご意見を記入ください。				

## 5 おわりに

まずは、外部評価委員の先生方は多忙にも関わらず委員就任を快くお引受けいただき、また、実地の外部評価ヒアリングでは厳しくも愛情に満ちた叱咤激励を頂きました。改めて深く感謝申し上げます。

この度、3名の外部評価委員の皆様には情報科学部がスタートした平成30年度から令和3年度までの外部評価を行っていただきました。ちょうど第1期生が入学して卒業するまでの4年間の活動状況等をまとめた資料に基づき、多様な視点から多くの貴重なご意見をいただくことができました。

多くの評価項目に概ね良好な評価を得ることができましたが、評価点に加えて、当事者では気づかない視点からの多くの具体的で建設的なご意見をいただきました。

また、情報科学部評価委員会の皆様には、ご多忙中にも関わらず外部評価資料の作成から本報告書における今後の対応まで多くのご尽力をいただきました。支援室の皆様には、外部評価のための資料作成、外部評価委員の先生方への事務手続きやヒアリング当日の運営まで大変お世話になりました。ご尽力くださった全ての皆様に心より感謝いたします。

令和4年度から情報科学部のカリキュラムが一新し、最新IT技術に精通し、日本を変えるDX人材を育成していきます。カリキュラムは、これまでの2コース制から3プログラム制に。また、履修モデルの自由度が高くなります。さらに、令和5年度からは情報科学部の定員がこれまでの80名から約2倍となる150名へと変わります。このような劇的な変化の中で、今回の外部評価でいただいたご意見とそれらに基づく今後の対応が有効に活用されることを願っております。そのためには、情報科学部に携わる教職員の皆様には、本報告書の内容を踏まえた上で今後さらに議論を重ねて、情報科学部の理念に基づく教育と研究を発展させていただきたいと思っています。

最後に、本外部評価にご尽力くださった全ての皆様に再度御礼申し上げます。

令和5年3月  
広島大学情報科学部  
評価委員会委員長 中西 透